

**研究主題 「教科・科目『奉仕』において  
生徒が意欲的に活動するような体験活動プログラムの開発  
ー望ましい事前指導の在り方を中心にー」**

東京都教職員研修センター研究部研究課  
東京都立多摩高等学校 教諭 藤田 豊

**I 研究のねらい**

**1 奉仕体験活動と事前や事後の学習活動の重要性**

東京都教育委員会が示す教科「奉仕」の目標（案）や科目「奉仕」の内容の取扱い（案）には、活動の事前や事後などの学習と奉仕体験活動それぞれが重要であり、互いに関連させて学習効果を上げることの重要性が示されている。

**2 奉仕体験活動の課題**

近年、学校が地域の協力を得ながら様々な体験活動を行うようになったが、学習のねらいが明確になっていないという指摘<sup>注1</sup>や体験活動のみに終わっているという指摘<sup>注2</sup>がある。

また、小・中学校の教員免許取得希望者向けの「介護等体験」においても、受入れ施設へのアンケート結果の中に、意識が十分には高くない学生の存在や、事前指導の内容に対する学校への要望など<sup>注3</sup>が示されている。

地域の社会福祉協議会等が主催する「夏体験ボランティア」では、学校の宿題として参加した生徒の意識の向上や、学校の取組み内容の向上が課題となっている事例もある。

**3 実りある奉仕体験活動のポイントは事前の学習から**

高校生が意欲的に奉仕体験活動に取り組み、地域や受入れ施設・団体等も円滑に受け入れられるためには、事前の学習が重要であると考え、生徒が意欲的に体験活動を行うための事前学習のプログラムを開発することとした。

**II 研究の内容と方法**

**1 基礎研究**

教員への調査、「介護等体験」の関連文書、所属校生徒の受入れ先への調査などを通じ、望ましい事前学習の在り方を研究する。

**2 開発研究**

所属校での奉仕体験活動に関する科目において導入可能な部分について実施し、調査・分析を行い、成果と今後の課題を明確にする。

**III 研究の結果と考察**

**1 所属校での取組み**

所属校は、平成 17 年度、「教科・科目『奉仕』の実践・研究校」として科目「社会体験学習」を設置し、次のように教育課程に位置付けた。

---

注1 福祉教育実践マニュアル 東村山市社会福祉協議会（東村山ボランティアセンター/福祉教育推進会，平成 17 年 5 月）  
注2 ボランティア・市民活動情報誌 ネットワーク No251 （東京ボランティア市民活動センター，平成 14 年 8 月）  
注3 教員免許取得希望者の社会福祉施設における介護等体験事業 実施説明会 （東京都社会福祉協議会，平成 17 年 2 月）

教科名	校外学習活動	科目名	社会体験学習
単位数	1単位 学校必履修	対象学年	第2学年/全員 約170名
体験コースの内容	①高齢者と触れ合う ②障害のある方と触れ合う ③子どもと触れ合う ④青梅の森と触れ合う ⑤クリーンアップ大作戦 ⑥地元の産業に触れる ⑦すごしやすい街づくりにチャレンジ ⑧イベント助っ人隊 ⑨夏体験ボランティアに参加	指導上の留意点	<学習のポイント> ○体験活動及び事前・事後学習を合わせ、35時間以上活動する。 ○1日単位の体験活動を3日間以上行い、学校の定める事前・事後学習に全て参加する。 <評価のポイント> ○活動中に記入する日誌、事前・事後学習での課題を提出し、成果が認められる。

○科目「社会体験学習」のねらい

人とのつながり	学校外の活動により、いろいろな人と交流する。そのことにより、自分が社会の一員であり、様々な人とつながっていることを実感する。
成就感・自分への自信	様々な社会体験を経験し、与えられた事柄をやり遂げたり、ほめられたりする中で、成就感を味わい、自分自身への自信をもつ。
他の人をおもいやる心	実際に活動をする中で、他の人の立場にたった発言・行動ができる。例えば、街で困っている方に自然に手助けできるような心や他の人を受け入れる心を育てる。
ルールやマナー	自分中心で物事を考えるのではなく、自分を取り巻く社会をしっかりとらえ、無意識のうちに社会のルールやマナーを踏まえた行動を取ることができる能力や姿勢を育てる。

最終的に、「みな暮らしやすい社会の在り方を考え、社会をつくる一員として地域など身近なところから自分ができることを行う態度や能力を身に付けていくこと」をねらっている。

○科目「社会体験学習」学習内容の構成

科目を事前学習、体験活動、事後学習の3項目で構成し、基準となる時間数を決定した。

事前学習	8時間	体験活動	24時間以上	事後学習	3時間
------	-----	------	--------	------	-----

体験活動は、夏季休業中を中心に行い、1日の活動を8時間とみなした。

2 事前指導の在り方を探る

体験学習がこれまでの希望者（40名程度）から学年全体（170名）へ広がるにあたり、次の表に示す3つの観点から基礎研究を行い、調査及び分析を行った。

学校外の学修の事前指導に関する所属校の教員の意見 <sup>注4</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを中心にしたものにしてよい。</li> <li>・自己紹介やマナー講座などの時間をしっかり取るのがよい。</li> </ul>																																										
介護等体験を受け入れた施設から、大学等への要望・意見 <sup>注5</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として、介護体験という以前に社会人として基本的なことを注意しなければならないことがあまりにも多くびっくりしています。</li> <li>・実習をするにあたっての姿勢・態度・社会人としての最低限のマナー等は学校側で事前に指導していただきたい。</li> </ul>																																										
所属校生徒の受入れにかかわる24施設・団体等から、奉仕体験活動の事前指導として実施すべき内容への意見	<p>[グラフ1] 自由記述の回答のうち、上位13項目を表示した。</p> <p>事前指導を実施するべきと思われる内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>必ず行うべき内容 (赤)</th> <th>その他 (灰)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あいさつ</td> <td>95%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>目的意識・自覚・具体的目標</td> <td>35%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>言葉遣い</td> <td>25%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>話を聞くこと、返事をすること</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>施設・事業所に関する基礎知識</td> <td>15%</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>障害や疾病の基礎知識</td> <td>15%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>服装・身だしなみ</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>個人情報の守秘義務</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>仕事の内容の基礎知識</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>大声で話をしない</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>笑顔</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>時間厳守</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>レクリエーションの実践準備</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>■必ず行うべき内容 □</p> <p>事前指導の在り方に関するアンケート                  (東京都立多摩高等学校、平成17年7月)より</p>	項目	必ず行うべき内容 (赤)	その他 (灰)	あいさつ	95%	0%	目的意識・自覚・具体的目標	35%	0%	言葉遣い	25%	0%	話を聞くこと、返事をすること	20%	0%	施設・事業所に関する基礎知識	15%	15%	障害や疾病の基礎知識	15%	0%	服装・身だしなみ	10%	0%	個人情報の守秘義務	10%	0%	仕事の内容の基礎知識	10%	0%	大声で話をしない	10%	0%	笑顔	10%	0%	時間厳守	10%	0%	レクリエーションの実践準備	10%	0%
項目	必ず行うべき内容 (赤)	その他 (灰)																																									
あいさつ	95%	0%																																									
目的意識・自覚・具体的目標	35%	0%																																									
言葉遣い	25%	0%																																									
話を聞くこと、返事をすること	20%	0%																																									
施設・事業所に関する基礎知識	15%	15%																																									
障害や疾病の基礎知識	15%	0%																																									
服装・身だしなみ	10%	0%																																									
個人情報の守秘義務	10%	0%																																									
仕事の内容の基礎知識	10%	0%																																									
大声で話をしない	10%	0%																																									
笑顔	10%	0%																																									
時間厳守	10%	0%																																									
レクリエーションの実践準備	10%	0%																																									

注4 平成16年度 学校外の学修（夏体験ボランティア）のまとめ（東京都立多摩高等学校、平成16年10月）

注5 教員免許取得希望者の社会福祉施設における介護等体験事業実施説明会（東京都社会福祉協議会、平成17年2月）

以上の結果より、奉仕体験学習の事前指導として、次の4点が大切であることが分かった。

- ・礼儀：「あいさつ」をはじめ、「話を聞くこと、返事をする事」「服装・身だしなみ」
- ・目標：「生徒本人の目的意識・自覚・具体的な目標」
- ・知識：「体験先や事業所に関する基礎知識」や「障害、疾病などの基礎知識」
- ・義務：「個人情報」の守秘義務

### 3 事前指導で「あいさつ」にかかわる授業を計画・実施

#### (1) 授業計画への位置付け ―奉仕体験活動を円滑に開始できるために―

該当学年の生徒全員が体験することを踏まえ、事前指導の在り方を検討した。初めてのあいさつがスムーズにできることで人とのコミュニケーションが円滑に進み、奉仕体験活動を意欲的に活動することができるようになることや、またそのことにより、自己肯定感をさらに向上させることができると考えた。そこで、全体的なカリキュラムの中にあいさつや第一印象などコミュニケーションに関する授業を位置付けた。

#### (2) 授業のねらい

この授業は、次の4点をねらいとして実施した。

- ・受入れ施設等からの調査結果〔前ページのグラフ1〕をもとに、体験活動の際、高校生に求められていること（事前知識や姿勢など）は何かを知る。
- ・「あいさつ」や「体験に対する態度」の大切さを知る。
- ・第一印象やあいさつのポイントを具体的に知る。
- ・一人一人があいさつのロールプレイを行う。他の生徒から評価され、自信をもち活動する基盤を作る。また、意図的に他人のよいところを見つけ、他人を承認する基盤とする。

#### (3) 校内の協力体制の構築―きめ細かい指導を行うために―

授業の実施にあたっては、「奉仕」を推進する校内の委員会の教員と担任等が協力して実施した。委員会の教員が全体の進行を行い、生徒の様子を把握している担任等は、生徒の活動を細かに観察して適切な助言を行うなど役割分担し授業を行った。

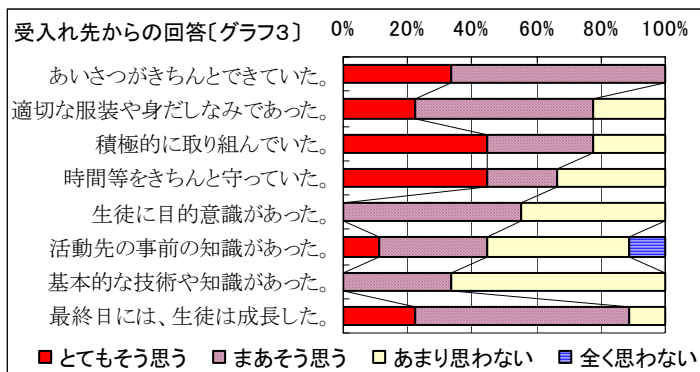
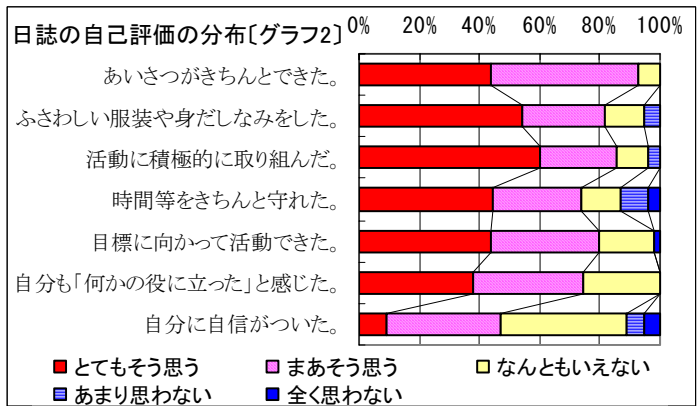
### 4 「あいさつ」にかかわる事前指導の実施後の成果と考察

#### (1) 実施直後の調査

生徒の感想を整理すると、「あいさつ等の大切さがわかった」等の肯定的な感想をもつ生徒が68%であった。一方、教員のアンケートでは、あいさつを授業として扱うことへの戸惑いやあいさつを教える現実に対するショックもうかがえた。しかし、体験活動の他、進路指導や人とのかかわりの中では必要な内容であるという点ではほぼ一致した。

#### (2) 日誌の自己評価

体験活動後の日誌（55人分）からは、「あいさつをきちんとできた。」と肯定的に自己評価している生徒が92%となり、一定の成果が見られた。〔グラフ2〕



### (3) 受入れ先からの評価

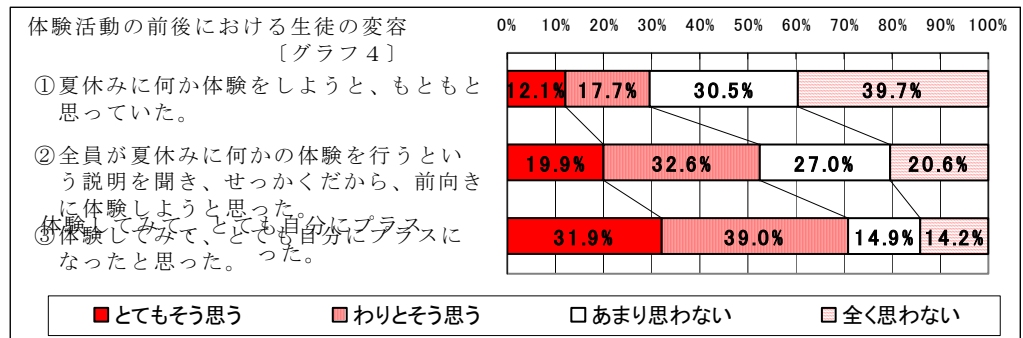
体験活動終了後の受入れ先への調査では、全体として生徒たちはあいさつをほぼきちんとすることができている〔グラフ3〕。一部に、自由記述欄において、「本当に身に付いているのか。」  
 「なぜ必要なのか分かっていない。」という厳しい意見もあった。

### 5 所属校における学習活動全体の成果と考察

「活動したら、自分にプラスになった」と感じた生徒が多い。

活動前に「①もともと何か体験しようと思っていた生徒」は約30%であったが、事前学習時に「②話を聞いて前向きになった生徒」が約50%に増加し、活動後「③体験を振り返って、プラスになったと思う生徒」は70%に増加したことが分かる。〔グラフ4〕

また、活動後の生徒用アンケートの回答では、約88%の生徒が「役に立った」と感じている。つまり学年全体で初めて実



施した「社会体験学習」は短期的には、成果を上げたものと考えられる。

### IV 今後の課題

#### ー生徒の体験活動を中心とした学習活動の満足度を向上させるためにー

最終的に否定的な回答をした生徒は29.1%（41名）〔グラフ4〕である。次に示すような改善を行い、活動後に否定的な回答をする生徒の割合を減少させ、学習活動への満足度を向上させる必要がある。

#### ○授業の充実

生徒同士であいさつの必要な理由などを話し合い、気付くまでの時間を十分に確保することが必要である。また、あいさつのロールプレイをした際に、生徒同士でよい点をカードに記入して渡すなど、認め合うための工夫が必要である。

#### ○生徒による事前訪問の設定

今回、通常の授業時数を確保する関係上、生徒による事前訪問を行わなかった。そのため、道に迷ったり、遅刻したりする生徒がいた。事前訪問を通して受入れ先について学習し、見通しをもつことで目標を明確にさせ、奉仕体験活動をさらに有意義にすることが大切である。

#### ○受入れ先との共通理解の推進

今回の結果では、自信がついたという項目に関しては低い値であった。受入れ先と学校が科目のねらいについて共通理解を図ることが大切である。受入れ先の役に立ち、生徒も意欲的に体験できる内容を開発するなど、意見を交換し合うことが有意義な奉仕体験活動につながる。

#### ○補習実施時の協力体制の確立

遅刻や欠席等をした生徒に対して、10月以降の放課後や休日に補習を設定した。中には補習時間が15時間を越える生徒もいた。連絡調整や引率以外に、補習等にあたる教員の人数や時数なども考慮しておく必要がある。